



古河電気工業は、自社開発した高機能型低圧アルミ

# らくらくアルミケーブルシステム シェア拡大に注力 24年度売上高20億円目標

古河電気工業

導体CVケーブル「らくらくアルミケーブル」の接続処理を一貫して行える「らくらくアルミケーブルシステム」イメージのシェア拡大に力を注ぐ。専用サイトの開設や講習会を開き普及活動に努める。ゼネコンなどへの営業活動に力を入れ2024年度までに売上高20億円を目指す。

らくらくアルミケーブルシステムは、アルミ導体専用端子や分電盤に取り付けるためのアルミ端子台、絶縁体とアルミ導体の酸化被

膜を同時に剝離する専用工具などをシステムとして提供する。専用サイト(<https://www.rakuraku-alumi.com/>)も設け、555アルミケーブルや関連部材、工具など一連のアルミ関連製品の仕様や特徴などを紹介している。2月には古河電工産業電線(東京都荒川区)の平塚工場(神奈川県平塚市)にある技能訓練センターを開設。アルミ導体の接続処理の施工講習会を行っていく。

らくらくアルミケーブルは、建物の屋内配線に使われ、従来の銅製CVケーブルに比べ軽量で柔らかく、アルミ導体を覆う絶縁体も剥ぎ取りやすい。通電容量が同等の銅製CVケーブルと比較した場合、らくらく

アルミケーブルはサイズが大きくなるものの、約30%の軽量化を実現している。エドバシ梅田タワー(大阪市北区)の新築工事で採用され、幹線工事の作業時間を40%削減した。タワークレーン電源工事の作業時間は銅製CVケーブルに比べ30%削減できた。

通常は作業員が5人必要などところ、らくらくケーブルは3人で作業でき省人化にも効果を発揮した。

